

行事予定

2023(令和5)年5月～8月

【特別展／企画展】

2023年 3月1日(水)～5月22日(月)

2022年度企画展Ⅲ 研究室訪問シリーズⅣ
「学院史のなかの神学部—成立と歩み、そして現在—」
[場所] 西南学院大学博物館1階常設展示室

2023年 3月14日(火)～5月22日(月)

2022年度テーマ展示
「聖書植物園のあゆみ」
[場所] 西南学院大学博物館1階

2023年 3月16日(木)～6月中旬頃

2022年度南島原市相互貸借特集展示Ⅲ
「原城発掘調査展Ⅱ モノ語る」
[主催] 南島原市教育委員会
[場所] 西南学院大学博物館1階

2023年 4月27日(木)～7月下旬頃

2023年度南島原市サテライト展示Ⅰ
「港と異国船—想い描かれた人々の記憶—」
[場所] 南島原市原城図書館

2023年 5月29日(月)～7月29日(土)

2023年度特別展
「戦争と学院—戦時下を生き抜いた福岡のキリスト教主義学校—」
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室・ドージャー記念室

2023年 6月17日(土)～2023年7月28日(金)

2023年度博物館実習成果展
[主催] 西南学院大学博物館実習生
[場所] 西南学院大学博物館1階常設展示室

【イベント】

2023年 6月24日(土) 13:00～16:00

2023年度西南学院大学博物館特別展関連公開シンポジウム
「キリスト教主義学校に遺された戦時下資料の保存と継承」
[場所] 西南コミュニティーセンター 1階ホール
※定員100名／事前申込制

【休館】

毎週日曜日 休館
2023年5月23日(火)～5月27日(土) 臨時休館
2023年7月31日(月)～8月1日(火) 臨時休館
2023年8月10日(木)～16日(水) 夏季休暇期間

行事予定は日程、内容等が変更する場合がございます。
各イベントの詳細につきましては博物館ホームページをご確認ください。

西南学院大学博物館 SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内

開館時間 / 10:00～18:00 (入館は17:30まで)

休館日 / 毎週日曜日、夏季休暇[8/10～8/16]、キリスト降誕祭[12/25]、
年末・年始[12/28～1/5]、そのほか臨時休館あり

入館料 / 無料

YouTube [西南学院大学博物館](#) @seinan_museum @seinan_museum

来館者掲示板

【来館者の言葉】

今村天主堂がある地域の近くに住んでいるということもあり、展示を見たことで、身近なキリスト教遺跡がより身近なものになりました。また、近くにある教会には、困難の中信仰を守り抜いた人々の背景があったのではないかと考えさせられました。(2023年1月)

展覧会を拝見するまでは、筑前とキリスト教の関わりについてイメージがあまりなかったのですが、展覧会を通じて筑前におけるキリスト教の歩みが理解でき、非常に興味深かったです。今後の発掘調査の進展に期待したいと思います。(2023年2月)

九州と、キリスト教の結びつきを、年代とその土地でいねいに分けて、キャプションが書かれていたので、とても分かりやすく、興味を持てる展示でした。もっと、大々的に企画してほしいくらいです。福岡が、ここまでキリスト教と結びつきがあるとは…。新しい発見でした。来てよかったです。(2023年3月)

3月11日(土)まで、「掘り出された祈り 考古学からみた筑前・筑後のキリシタン」が開催されました。県内外より多くの方にお越しいただき、2月25日(土)に開催されたシンポジウムも大盛況となりました。展覧会担当者として大変嬉しく思います。3月1日(水)からは、企画展「学院史のなかの神学部—成立と歩み、そして現在」が開催されています。皆様のご来館をお待ちしております。

学芸研究員 鬼束 芽依

編集後記

2023年7月、福岡で世界水泳大会が開催されます。実は西南学院大学博物館には「水」や「海」に関する資料がたくさん収蔵されており、これを機にいくつか展示してみたいなと考えています。世界水泳で福岡にお立ち寄りの際は、ぜひ当館にもお越しください。

博物館教員 下園 知弥

アクセスマップ ACCESS MAP



- 福岡空港 → 西新駅下車...約17分
- 博多駅 → 西新駅下車...約12分
- 天神 → 西新駅下車...約8分
※地下鉄西新駅(3番出口)から徒歩5分
- 博多駅バスセンター → 修猷館前...約35分
- 天神 → 修猷館前...約20分
※修猷館前バス停から徒歩5分
- 福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約25分
- 博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約20分
- 天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学...約15分

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume 48 2023.5

西南学院大学

所蔵品紹介 阿蘭陀国使節長崎入船黒田鍋島陣営図

大学博物館のお仕事④ 「資料の収集と保存」

博物館通信 「学院史のなかの神学部—成立と歩み、そして現在—」ほか

展覧会紹介 「聖書植物園のあゆみ」ほか



所蔵品紹介 特集

阿蘭陀国使節長崎入船黒田鍋島陣営図

Picture of Dutch Ships Entering Nagasaki Port

江戸時代後期/日本/紙本着色、額装/法量縦115.0cm×横77.0cm[本紙]

江戸幕府の鎖国体制下で、貿易の窓口の一つであった長崎は、当時日本で唯一の開港地でした。1570(元亀元)年に開港した長崎は南蛮貿易の拠点となりましたが、幕府が1624(寛永元)年にスペイン船、1639(寛永16)年にポルトガル船の来航を禁止して以降、長崎への入港はオランダ船および中国船に限られることとなりました。これに伴い、許可のない外国船の来航を警戒した幕府の命によって、福岡藩と佐賀藩は1641(寛永18)年以降、隔年交替での長崎湾の警備を行っています(長崎警備)。

本資料は、1844(天保15)年7月2日に長崎港に入津したオランダ船パレンバン号を描いたものです。この時の使節はアヘン戦争の敗北による清の惨状を伝え、日本がその二の舞としないよう開国を勧告するオランダ国王ウィレム2世の親書を持参していました。パレンバン号は通常のオランダ商船とは違い、大砲38門が備え付けられた「兵船(軍艦)」であったことから人々の関心を惹いたと思われ、資料中の「蘭船初来止於此四日後入湊内止於西泊陣所前」の文字から、この絵図はパレンバン号が入港して数日のうちに描かれたことが分かります。資料の中央付近に見えるパレンバン号の全長は三十間半(約55m)、幅は七間半(約14m)ほどあり、周囲の和船と比較するとその大きさが際立ちます。軍艦であるパレンバン号の来航を受け、この年は非番であった福岡藩も加勢するなど、嚴重な警備が敷かれています。

18世紀後半以降、日本近海にはロシアやイギリス、アメリカなどの船が頻繁に出没するようになり、幕府や諸藩はその対応に苦慮していました。特に佐賀藩は長崎警備の当番であった1808(文化5)年にイギリス船フェートン号の侵入を許し、長崎



奉行と佐賀藩の家老数名が自刃する事態に陥ったという苦い経験があるため、他藩に比べ国防に対する危機感が高かったようです。沿岸警備の重要性を認知していた佐賀藩10代藩主の鍋島直正は、パレンバン号来航の知らせを受け、9月19日に船内を視察したのち、大砲の操作を見学したといわれています。直正は、パレンバン号の視察で国防のために西洋の軍事技術を導入する必要性を痛感したのでしょうか。彼はその後、長崎湾外の台場の築造や反射炉の造成、鉄製大砲の製造など、最先端の軍事技術を積極的に取り入れ、佐賀藩を幕末の雄藩の一つにまで成長させました。その結果、佐賀藩の軍勢力や人材が、日本の近代化に大きく貢献することとなったのです。

学芸研究員 迫田 ひなの / 学芸調査員 相江 なぎさ



SEINAN GAKUIN
大学博物館のお仕事Ⅳ

資料の収集と保存

西南学院大学博物館では、年4回の展覧会を通して収蔵品を公開しています。何気なく展示されている貴重な資料の数々ですが、これらの資料はどのようにして収集され、保存されているのでしょうか。今回は、博物館の資料の収集と、その保存についてご紹介します。

現在、当館にはおよそ2,000点の資料が収蔵されています。資料の収集方法としても一般的なものは、ギャラリーや古書店などから資料を購入する方法が挙げられます。しかしそのほかにも、資料の所有者が資料を博物館に貸与する寄託、また資料の所有権自体を博物館に移譲する寄贈などの方法で収蔵される資料もあります。その中でも大学

内に設置された博物館として特徴的なのは、本学の教員や関係者から資料を寄託・寄贈されることがある点です。当館には人間科学部児童教育学科の黒木重雄教授が制作した絵画が寄託されているほか、神学部の名誉教授である関谷定夫氏が収集したユダヤ教の祭具など約400点が寄贈されています。また、他の博物館が所蔵する貴重な資料の複製も資料収集の一種だと言えるでしょう。当館の所蔵する《マリア十五玄義図》は、京都大学総合博物館が所蔵する資料の複製ですが、このような資料を活用することによって、より体系的で幅のある展示が可能となります。

このようにして収集された資料は、収蔵庫と呼ばれる施設で保存されます。収蔵庫は虫害だけでなく、カビや乾燥など、温湿度の変動による資料の汚破損や劣化を最小限にとどめ、より良い状態で保存することができるよう温湿度が常に一定に保たれています。収集した貴重な資料を保存し未来の世代へ繋げることは、博物館運営の根幹を成す重要な活動なのです。

学芸研究員 迫田 ひなの



寄託資料 黒木重雄《One Day》

博物館通信 2023年3月から5月にかけて行われた博物館活動の中からいくつかをご紹介します。

西南学院大学博物館では、2023年3月から5月にかけて、西南学院大学博物館・西南学院史資料センター連携企画展／研究室訪問シリーズⅣ「学院史のなかの神学部—成立と歩み、そして現在—」とテーマ展示「聖書植物園のあゆみ」を開催中です。それぞれ「神学部」「聖書植物園」という視点から展示資料を通して、西南学院史を紹介しています。

すでに多くのお客様にご来館いただき、「西南大学の日本と文化歴史と神学の発展が大変参考になりました。」「聖書植物園のはじまり(ミルトスのお話)が興味深かったです。いつかさわって、かいてみたいです。」などのお声をいただいています。今後もスタッフ一同皆様のご来館を心よりお待ちしております。

学芸調査員 栗田 りな

2023年3月1日(水)～2023年5月22日(月)
西南学院大学博物館・西南学院史資料センター連携企画展／
研究室訪問シリーズⅣ「学院史のなかの神学部
—成立と歩み、そして現在—」を開催中です。

2023年3月30日(木)
ワークショップ「聖書植物で押し花しおりをつくろう!」開催。

2023年4月8日(土)
ワークショップ「聖書植物園ツアー」開催。

2023年3月14日(火)～2023年5月22日(月)
テーマ展示「聖書植物園のあゆみ」を開催中です。

2023年3月16日(木)～6月中旬
相互貸借特集展示「モノ語る」を開催中です。



展覧会紹介 開催中

2022年度西南学院大学博物館・西南学院史資料センター連携企画展
研究室訪問シリーズⅣ

学院史のなかの神学部

—成立と歩み、そして現在—

会期／2023年3月1日(水)～5月22日(月)

会場／西南学院大学博物館1階常設展示室

主催／西南学院大学博物館 西南学院史資料センター

協力／西南学院大学神学部 西南学院大学図書館

西南学院大学神学部の源流は、学院創立の1916(大正5)年よりも以前、1907(明治40)年の福岡バプテスト神学校の設立に求めることができる。設立以来、神学部は大名、西新、干隈とキャンパス移転を繰り返し、2023(令和5)年現在は西新キャンパスで他の学部と共に教育・研究の日々を過ごしている。100年以上にわたるこの長い歴史の中で、神学部は多くの問題に直面しながら、牧会や教育の現場でキリスト教について語る人々を育て世に送り出してきた。

本展覧会では、その歴史の一端と現在の神学部教育について、さまざまな資料と共に紹介する。



西南学院大学博物館では、2023年度より「ナイトミュージアム」を定期開催いたします。毎月第3金曜日は午後8時まで(最終入館は午後7時30分まで)開館しておりますので、夜の博物館でいつもとは違った雰囲気を楽しんでください!

展覧会紹介 予告

2023年度西南学院大学博物館特別展

戦争と学院—戦時下を生き抜いた福岡のキリスト教主義学校—

会期／2023年5月29日(月)～7月29日(土)

会場／西南学院大学博物館1階特別展示室・ドージャー記念室

主催／西南学院大学博物館

協力／学校法人 西南女学院 北九州市立自然史・歴史博物館

西南学院史資料センター 西南学院大学図書館

同志社大学 神学部 福岡女学院資料室 兵士・庶民の戦争資料館

民衆の生活や文化に対してさまざまな統制が行われたアジア・太平洋戦争期の日本において、キリスト教主義を掲げた学校は「敵性語」や「敵の文化」を積極的に取り入れていると批判を浴び、その多くが存続の危機に晒されていた。欧米の文化排斥が活発化する中、全国のキリスト教主義学校は、国家に協力姿勢を示しつつ、学校の形態や授業内容、行事名を変えるといったさまざまな工夫によって学校存続を試みた。

本展覧会では、福岡県の三つのキリスト教主義学校、福岡女学院・西南女学院・西南学院に注目し、各学院で当時実際に使用されていた制服や教科書、当時の様子を写した古写真や映像などの展示を通して、戦前から戦時下にかけての学生生活と教育の変化について紹介する。

